

さいたま市長 12月定例記者会見
平成22年12月22日(水曜日)
午後1時30分開会

○ 進 行 それでは、記者クラブの皆様、市長定例記者会見を始めさせていただきます。

 それでは、記者クラブ幹事社、埼玉新聞さん、よろしくお願いいたします。

○ 埼玉新聞 12月の幹事社を務めている埼玉新聞です。よろしくお願いいたします。

 それでは、市長からの発表事項をよろしくお願いいたします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。平成22年もいよいよ押し迫ってまいりましたが、議題に入る前に一言ごあいさつを申し上げます。

 先日、埼玉県高校生英語ディベート大会で優勝いたしました市立浦和高校が全国大会でも見事優勝という朗報が届きました。高校生のすばらしい活躍は、活力あるさいたま市を象徴し、またさいたま市の明るい未来を約束するような出来事であります。終わりよければすべてよしと申しますが、1年を締めくくるにふさわしいビッグニュースでありました。さいたま市長として心よりお祝いを申し上げ、市民の皆様とともにこの快挙を喜びたいと思っております。

市長発表

議題：「平成23年さいたま市成人式の開催について」

 それでは、議題の説明に移ります。本日の議題は1件でございます。

 さいたま市では、平成23年さいたま市成人式を明年1月10日、祝日の午前10時30分から、「さいたまスーパーアリーナ」で開催いたします。本年の成人式対象者は平成22年4月2日から平成23年4月1日までに生まれた方、約1万2,000人の方でございます。

 本年の成人式では、新成人へ向けたメッセージとしてテーマを「Fly High はたちのステージ」というふうにいたしました。これは、成人として未来へ向かって高く飛翔するステージにしてほしいというメッセージとして発信をするものでございます。

成人式の内容は配付資料のとおりですが、本年はオープニングイベントで、国内外での演奏で活躍をされている女性を中心としたグループ「批魅呼(ひみこ)」による和太鼓演奏とURAWAチアリーディングクラブ「レッドモンキーズ」によるチアリーディングの演技、また国歌斉唱を本市の観光大使を務めておりますバリトン歌手の吉武大地さんをお願いをしているほか、アトラクションでは埼玉大学のアカペラサークル「チョコレッツ」やプロとして活躍するアカペラグループ「ソルジック」に出演していただき、成人式を盛り上げていただくことにしております。

また、最後には会場の全員で「手紙～拝啓十五の君へ～」を合唱し、感動のフィナーレを迎えることにしております。

また、昨年同様に「はたちのエコピース～さいたま市から“絆”を広げよう～」をキャッチフレーズとして社会貢献活動を行います。今回は、ペットボトルキャップの収集に加えて、不要になったCD、DVD、ゲームソフトも収集をいたします。新成人の皆様へは、過日発送いたしました案内状の中で本活動について呼びかけを行っております。

成人式当日、出席者に持ってきていただいたペットボトルキャップやCD、DVD、ゲームソフトは世界の子供たちのワクチン支援活動や、アジアの文化支援として役立てられます。

なお、今回の成人式も例年どおりご家族が参加できるほか、お子様連れの新成人の方が安心して式典に出席できるよう託児所も用意をいたしております。

私からの説明は以上です。

なお、お手元に平成22年さいたま市10大ニュースを配付してございますが、皆さんの参考にしていただければと思います。

以上でございます。

議題 関連質問

- 埼玉新聞 市長からの発表事項について質問のある方はいらっしゃいますか。
それでは、幹事社から。はたちのエコピースの関係で、本年からCD、DVD、ゲームソフトの収集も行うということですがけれども、この集めたCDやDVDをどのようにワクチン支援活動に役立てるのかお教えいた

きたいんですけれども。

- 市長 このCD、DVD、ゲームソフトにつきましては、社団法人シャンティ国際ボランティア会の活動へ寄附し、アジアの子供たちへの教育・文化支援に役立てられるということになっています。
- 埼玉新聞 ワクチンも含まれるものなんですか。
- 市長 これは、そうですね、ちょっと担当から。
- 事務局 CD、DVD、ゲームソフトに関しましては、先ほど市長が申し上げたとおりでして、ワクチンに関しましてはペットボトルキャップをワクチンのほうに役立てるということしております。
- 埼玉新聞 あと、CD、DVDについては、これは埼玉県内の他市の自治体でも取り組まれていることなんですか。それとも、さいたま市独自のものなんですか。
- 事務局 さいたま市独自でございます。
- 埼玉新聞 ほか各社ご質問、市長の発表事項については質問はありませんか。それでは、幹事社からの質問に移らせていただきます。

市長発表

1：「子宮頸がん等ワクチン接種の無料化について」

2：「来年度予算編成の予算規模や目玉についての基本的な考えについて」

幹事社からの質問は2点です。1点目は、さいたま市で子宮頸がんなどのワクチンの無料化を本年度中に前倒しするというお考えですけれども、本年度中に前倒しする理由と今後の財源についての見通しをお聞かせください。

2点目としましては、現在来年度予算の編成作業をやられていると思いますが、予算規模や目玉の政策など、基本的な考えをお聞かせください。よろしく願います。

- 市長 それでは、最初の子宮頸がん等のワクチン接種の無料化を本年度中に前倒し実施する理由についてと、その財源の考え方についてお答えをいたします。

本市における子宮頸がん等のワクチン接種費用の助成については、去る

12月の9日に行われました市政記者クラブの皆様との記者懇談会におきまして、2月議会に予算案を提出し、年度内の開始を目指す考えを示したところでございます。この考えは、子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進臨時交付金として、市町村が行う接種費用助成事業への補助金が盛り込まれた平成22年度補正予算が成立したことを受けてのものでございます。

その中で、第1に、このような補助金制度を実施することは、国としてこれらのワクチンを広く地域で接種することに、有効性と安全性を認めたものと判断をしたことが理由の1つであります。

2つ目が、このような補助金制度を実施することは、国としてこれらのワクチンの安定供給にめどが立ち、公平性が担保されているものと判断をいたしました。

そして、第3に、この補助金制度が国の平成22年度補正予算に盛り込まれているために、本市としても可及的速やかな対応を図り、年度内の実施を目指すべきだと判断をしたものでございます。

また、本市におきましても、さきの9月議会におきまして子宮頸がんの予防措置の実施を国に求める意見書、また昨年9月議会には細菌性髄膜炎ワクチンの早期定期予防接種化等を国に求める意見書が採択をされておりますので、そうしたことも考慮に入れて決定をさせていただきました。

本市としての接種費用助成事業の財源は、国の補助金と本市の一般財源ということになります。これらを踏まえた予算につきましては、平成23年2月定例会に平成22年度補正予算並びに平成23年度当初予算の一部として上程をさせていただく予定になっております。平成23年度の事業総額は、おおむね30億円と見込んでおりますが、さらなる精査が必要と考えております。予算案の詳細につきましては、現在所管課に編成を急がせているところでございます。

最後に、国の接種費用助成事業につきましては、「平成23年度限りの措置」、「将来の定期予防接種化」などの情報がございまして、そうだとすれば毎年20億円近い財政支出が見込まれます。この点につきましては、従来から繰り返しておりますが、予防接種行政は国策として、財政面を含め国の責任で取り組んでいただきたいとの要望を今後とも続けていきたいと考えております。

続きまして、来年度予算編成について、「予算規模や目玉についての基本的な考え方は」というご質問についてお答えをいたします。

来年度予算編成につきましては、先週ですが、5日間をかけまして、各局の事業の方向性を審議する予算編成に係る集中審議を実施したところでございます。

現時点では、最終的な金額は決定しておりませんので、予算規模について正確にお答えすることはできませんが、各局の要求状況につきましては既に集計しておりますので、この機会にお知らせをいたします。

まず、歳入の予算要求状況でございますが、合計で

4,393億2,674万5,000円、

対前年度103億2,674万5,000円の増額の要求がございました。

また、歳出につきましては、合計で4,643億4,841万6,000円、対前年度でいいますと353億4,841万6,000円増額でありまして、要求時点における財源不足額は250億2,167万1,000円となっております。

予算編成方針を策定した時点での財源不足の見込みは約188億円でありましたけれども、推計時点よりも扶助費全体の予算要求額が大きくなっていることなどから、財源不足が拡大をしたものと考えております。

要求状況の詳細につきましては、後ほど担当から資料を提供させていただきたいと思っております。

現在、財政局におきまして要求の内容、金額を精査中でありまして、年明けの市長査定で決定してまいります。扶助費の動向などからしますと、今年度予算よりは増額になるものと考えております。

以上です。

代表質問に対する関連質問

- 埼玉新聞 あと、目玉の政策について基本的な考えがございましたら。
- 市長 それについては、まだ担当所管と財政局で今査定している最中ですので、ちょっと現時点では控えさせていただきたい。

- 埼玉新聞 昨年度も9.6%の大幅な伸びを示しましたが、これからまだ編成に係る予定ですが、歳入歳出ともかなり伸びが出ておりますが、市長としてはその伸びを抑える方向で進めていきたいというお考えなんですか。
- 市長 そうですね、現状として、いわゆる扶助費関連ですね、12月の定例議会でも出しましたが、生活保護費だとかあるいは来年度に向けて今子ども手当の問題ですとか、そういったもので、ある程度規模は昨年よりは拡大するという事はほぼ間違いないだろうと思います。
- ただ、その中で、やっぱりバランスというのが大変重要だと思っておりますので、その辺をしっかりと考えたものにしていきたく思っております。
- 埼玉新聞 あと、歳入のうち市税収入の見通しはいかがなんですか。
- 市長 そうですね、現時点で申し上げますと、去年は74億円ぐらいの減収見込みということで予算編成を行いましたけども、今年は昨年よりは少し増えるだろうと。要するに昨年度よりは増額が見込まれると。その要因については法人市民税、これが昨年度よりは企業収益が回復傾向にありますので、34億円ぐらいの増額になるのではないかと現時点では見込んでおります。
- 埼玉新聞 ほかに各社ありましたら、よろしくお願いします。
- 時事通信 済みません、時事通信と申します。
- 目玉のところなんですけども、決まるものは別として、市長は何を目玉にしていきたいんですか。去年は、例えば土曜チャレンジスクールとか、そういうとことかあったと思うんですけど、市長が考える目玉施策というのは何ですか。
- 市長 基本的には、土曜チャレンジスクールのように市民の皆さんと行政が協働していく、そういう分野の予算についてはしっかり盛り込んでいながらやっていきたいと思っております。具体的な事業名については、今所管からも上がってきますし、私自身もこういうのをやったらどうかというような提案をしていますけども、その辺がまだ市長査定の段階で上がってきておりませんので、明確には申し上げられませんけど、そういった分野のものが事業の目玉になってくると思っております。
- 時事通信 「そういった部分」、「そういった事業」というのは、どういった事業ですか。

○ 市 長 要するに、市民と行政が協働で行っていかとか、あるいは市民のボランティア的な部分をですね、よりやりやすくする環境をつくるための事業とかですね、そういったものが1つの目玉になってくると思っています。

○ 時事通信 ちょっとまたお伺いしたいんですけども、その子ども手当の関係なんですけど、「現場から考える首長の会」でも盛り込まない方針でいきたいというふうに主張されている首長さんもたくさんいらっしゃって、今その査定の、前回もお伺いしたんですけども、改めて市長がですね、子ども手当を当初予算に組み込むか組み込まないかというところをお伺いしたいのと、あと明日現場首長の会でその議論がされるかと思いますが、その現場首長の会で盛り込まないということが決定したら、さいたま市でも盛り込まないのかをお聞かせください。

○ 市 長 子ども手当につきましては、12月20日だったでしょうか、5大臣による合意というのがなされたというふうに聞いております。

この中身を見ていると、基本的には、要するに今までの1万3,000円の分の中には地方の負担があると。ただ、それ以外の積み上げの分には地方の負担はないということが1つの合意事項としてありました。

これらについては、やはり1万3,000円の分も基本的には、やはり国でしっかりと見るということが本筋だと思いますので、その辺については大変私自身も遺憾に思っています。

ただ、給食費ですとか保育料の未納の方々への天引き等については、本人の了解を得られれば、実施をしてもいいという方針だと聞いておりますので、その部分については私たちが申し上げてきたところについて入れていただいたと思っておりますので、1歩前進であると考えています。

そして、ポイントは地方が地域の実情に応じた子育て支援サービスを拡充することができるような新しい交付金、これを設けるということが決められたわけですけど、この中身が現時点ではまだわかっていないと。

私たちは、1万3,000円以外に増額する場合には、その部分は地方がその地域の実情に合わせて子育て支援のサービスを現金ではなくて現物で給付をさせてほしいというようなことも訴えてきましたけれども、この内容がどのぐらいの規模なのか、こういったものに使うことができるのか、そういった詳細がわからないので、今そこは何とも言えませんが、そこ

が私自身としてはかぎの1つでもあるのかなと思って今見守っているところですよ。

最終的に現場首長の会も23日に行いますけど、翌日の24日の政令指定都市市長会でも、この子ども手当の問題が大きな議題の1つになってまいりますので、そういった首長さんたちとも議論をしながら、その政令指定都市市長会としてどういう対応するか、あと現場首長の会としてもどういうふうに対応するか、それ決めていきたいと思いますが、私自身としては、1つはこの現物給付の金額の大きさとかが、使い勝手だとかが、その辺を1つ注目をしていきたいと思っています。

これがどういうものを提示していただくかによって、もちろん私たちが言ってきたこと、既に、100%(の理解)ではなくて、地方負担があるということでもありますけども、私たちが負担する部分に見合うぐらいの規模、ある程度そういったサービス、現物サービスが行えるような環境があるとすれば、1歩、2歩前進できるのかなとは思っていますけども、そこ次第ということだろうと思っています。

- 時事通信 盛り込むということでもいいんですか、当初予算に。
- 市長 当初予算、ですからその動向が多分数日中にも明らかになりますので、それを受けて態度を決定していくということです。
- 時事通信 要は、地方として好きに使えるサービスができるだけのお金をもらえるのであれば、子ども手当の盛り込みも考えるということによろしいんですか。
- 市長 そう、要するにそうですね。私たちとしては、これまで巨額な子ども手当というお金が私たちの目の前を通過して支払われていくわけですけど、子育て支援策ということについていうと、私たちの認識では現金を給付するよりも、地域に合った子育てサービスを充実させるほうが効果が高いという考え方を持っていますので、その辺の部分が、私たちが出す分と見合う、あるいは近い部分の金額であったり、あるいはそれが使えるような要素であれば、少し前向きにとらえることはできるのかなとは思っていますけども、その辺がどういうふうなことになるのかということが、私たちがしてきたことが100%でなくても、ある程度理解をしてもらえたかどうかということの判断する一つの材料になってくるんじゃないかということです。

よろしいですか。

- 埼玉新聞 それでは、あとは各社フリーでお願いします。

その他：「埼玉改援隊について」

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。先日、先日じゃなく昨日ですね、埼玉改援隊の設立についての会見での発表がありましたけれども、さいたま市議会でも野党会派で、各会派で反発も上がっているんですが、それをどのようにこれからですね、説得して趣旨を説明されていこうと考えておられるかを伺いたいです。
- 市 長 そうですね、趣旨が十分に伝わっていない部分もあるかもしれませんので、そういう意味では十分に趣旨も説明をし、理解をしていただくように努めていきたいと、このように思います。
- 産経新聞 産経新聞といいますけども、きのうの改援隊の話で質問できなかったことをちょっと質問したいんですが、賛成してくれる人なら何党でもいいとおっしゃったけども、例えば何党でもいいと言いながら、やっぱり考え方が違うところいっぱいあると思うんですけど、一つ例を挙げると外国人参政権という話があると思うんですけど、を認めるか認めないかという。市長は、どういう考えでいらっしゃるんですか。
- 市 長 外国人参政権については、私自身、個人的には賛成ではありません。慎重に対応していくべきというのが基本的な考え方です。

ただ、今回の問題については、昨日も少し申し上げましたけれども、私が考えている一から十までを全部賛成してもらって、それを前提に応援をするということではなくて、基本的な枠組みだとか、基本的に方向性が似ている、要するにこの部分は私にとっても非常にポイントだと思えるような部分を具体的に出して、それをご理解いただくと。

二代表制でありますから、基本的には全部、何でもかんでも私が出したものを賛成してほしいという意味でこれをやるわけではありません。基本的には、いろんな議案に対してご議論をいただくというのが必要だと思っていますし、それを議論していただいた上で、賛成、反対というのは構わないと思っています。

ただ、基本的な、今後出していく共通政策、あるいは地区ごとのマニフェストについては多少具体的なものを盛り込んでいきますけれども、その中では最低限のことということで、その中でともに同じ方向でやっていくかどうかというのを確認しよう。ですから、私が考えていることすべて共感をしてください、同意をしてくださいということで出すものではありません。

そして、その中には、今外国人参政権のお話が出ましたけど、そのことについてはまだ盛り込むかどうか決めておりません。基本的には、今回のマニフェストの中には入れないつもりでいます。

○ 産経新聞 何か地方といえども、国家間にかかわる話というのは割と重要で、政治家が集まって何かするときというのは、やっぱりそういうものが根幹で共通しないと、なかなか集まって何かやれないと思うんですけども、そういったことは棚上げて言ったらあれだけでも、そういうことでしょうかね。

○ 市長 基本的には、ですから国家間につながるものであるとすると、要するに国の政党の考え方だとかというのが影響しやすい方面になってくると思っていますので、そうではなくて、もう少し身近なレベルでの合意を私たちはしていきたいと思っています。

そういう意味で外国人地方参政権の問題は、地方の問題でもあるけれども、同時にやっぱり国全体にかかわる問題なので、この部分についていうと国の政党の考え方なども、あるいはもちろん個人の考え方も影響はあると思いますけども、そういった部分の影響もありますので、できるだけ私たちは、私自身が掲げているのは、国の政党の枠組みとは違う、もう少し身近なところでの方向性の合意、イデオロギーに関するものではなくて、基本的な、身近なところでの合意を私たちはしていきたいと。

ですから、そういう大枠のイデオロギー的であったり、基本の根幹になるような部分、国政も含めた根幹になるような部分のところについては、これはいろんな考え方もありますし、今回私自身が出したいと思っているものには含めていません。よろしいでしょうか。

○ 埼玉新聞 済みません。関連なんですけど、その改選隊の推薦というのはいつごろ発表される予定ですか。

○ 市長 まだ政策自体これから、1月の早い時期と思っていますけども、に発表

しますので、それからもちろんいろんな現職の議員さんも含めて呼びかけをしてまいりたいと思いますので、ちょっとスケジュールとしてはいつということはまだ明確には言えませんが、1月中から2月ぐらいにははっきりさせていきたいなとは思っています。

- 産経新聞 済みません、もう一回いいですか。さっき政党の枠組みというものを、きのうから割と否定されているような感じがするんですけども、さいたま市議会という政令指定都市になったことをきっかけに、かつては保守系の議員だった人、自民党籍を持っている人たちが自民党市議団というものをつくったり、共産党と公明党は前からあったけども、民主党も民主党市議団の看板を出しましたよね。割とだから、党の看板でもって地方でもやる動きにあるのかなと。それで民主党の菅政権が余りうまくいっていないときとかに、地方でも民主党が落ちこちたりするというような傾向がだんだん強まっているような感じがするんですけども、そこに持ってきて何か市長のおっしゃることが、流れ的に反するものじゃないのかなというふうな感じがして……

- 市長 地方政治でも、政党化を進めたほうがいいという考え方ですかね。

- 産経新聞 現状そうなっているんじゃないかと。

- 市長 それは、その都市が大きくなって選挙区が、区割りが大きくなってきているということが一つの要因だとは思うんですけども、ただ、そういった要因はありますけども、やはりこれまで、さいたま市以外の市なんかで見てもみるとね、まだまだ今お話あったように保守系無所属であるとか、民主党系だけれども、無所属だとか、いろんな無所属の方々がいて、なぜそういう方々がいるかという、やはり地方の政治は市民の生活に密着をしているということなんです。

ですから、国のそういうイデオロギーにかかわったり、あるいはいわゆる議院内閣制のもとに行われている政治とはやはり違ったものがあるということで、これまではそういう形で小さな都市の場合にはあったと思うんですね。それが大きな選挙区になりましたので、それが少し薄らいできているという部分があると思うんですけど、でも一方で、そのことで、やっぱり十分市民のための議論がなされにくくなってしまったり弊害も当然あると思っています。

ですから、これから地方分権とか地域主権、これを進めるに当たっては、やはり国とは少し利害がぶつかるところが私はあると思っています。

ですから、それを考えたときに国の政党という枠組み、あるいは国の政治の延長線上だけで地方議会が議論されていくということは、必ずしも市民の皆さんにとって利益にならないと思っておりますので、だからこそあえて国は何党を応援されていてもいいんじゃないかと、国政を選ぶ選挙であれば、それは構わないんじゃないかと。ただ、そうでない選挙の場合には、そうではない選ぶ基準をね、私たちとしては市民の皆さんに提示をしていきたいと思って、今回のこうした活動になっているわけですね。

○ 産経新聞 ただ、そう市長が思えば思うほど、現場の議員さんと反発が生まれてくるんじゃないかしらと、これから。新聞読むと、自民党と公明党は参加する気はないと言っているし、恐らく共産党も参加しないだろうし、それだけでもう過半数いっちゃうみたい。そこでもって、現職の議員に手突っ込んで参加を呼びかけるのに新人を足すとすると、新人の数が結構な数になるんじゃないかというふうに思うんですが、それだけの玉はあるんですか。

○ 市 長 まだそれはこれからですので、何とも申し上げられないんですけど、ただそういう考えを持つ議員さんは、今言った中でも、個人レベルでは私はいらっしゃると思っていますし、あるいはもちろんそれに共鳴して、今までは議員になるつもりはなかったけど、新たにやっぱりやってみようかという方も出てくるかもしれませんし、いろんな方がいらっしゃると思いますので、私自身は政党を否定しているわけでは全くなくて、国政レベルでの政党というのはやっぱり議院内閣制でありますし、政党と政党が政策をぶつけ合って戦っていくものだと思っていますんですけども、ただ地方の場合は、その国の政党が言っていることだけでは、やっぱり判断ができないんじゃないか。

だから、地域をベースとした考え方を提示して、その政策に基づいて選ばれることがいいんじゃないかと申し上げておりますし、その中で、議会の中でもまさにそういう視点でご議論をいただくことがいいんじゃないかと思っておりますので、そういったことにご理解をいただける議員さんも現職の中にもたくさんいらっしゃると思っていますから、もちろんご理解

いただけない方もいらっしゃると思いますけども、ご理解いただける方を一人でも増やしていきたいと思っています。

市民の皆さんからすると、やはり国はともかくとして、やっぱり生活に密着した部分の行政をやっている自治体でありますから、基本的には何党でも判断の大きな基準ではないという方々もたくさんいらっしゃいますし、私も全くそのとおりであります。

ですから、国の政党の選択肢とは違う選択肢を私たちは提示をしたいという意味で、今回共通政策だとか地域のマニフェスト、あるいは政策ということを出させていただいて、それについて賛成なのか反対なのかということの中でご議論をいただいたり。

ただ、それはさっきも言ったように、もう全部が全部、私たちがやっていること全部賛成してくれということでは全くありません。ですから、大枠であったり、あるいは幾つかポイントになる施策の部分についてはある程度共通の理解と認識を、あるいは危機感を持っていただいてやっていただきたいと、そういう議員さんを増やしていきたい、それを市民の皆さんに選択肢として提示をしたいと、こういうふうに思っています。

その他：「今年1年を振り返って」

○ 埼玉新聞 よろしいでしょうか。

最後に、ことし最後の記者会見となりますけれども、ことし1年間を振り返ってどのような1年間だったか、感想をお願いします。

○ 市長 そうですね、当選をして7カ月目から、ちょうど今1年6カ月ぐらいのタイミングということでございまして、去年最初の6カ月は本当にもう無我夢中で走ってきたという感じでありましたけれども、今年に入って少し私自身がしっかりとやるべきことということで基礎固めをしていこうということビジョンづくりだとか、仕組みづくりだとか、基礎づくりだとかという、ある意味では畑を耕して種を植えていくということを重視してやってきたつもりで、それについてはできていない部分もございまして、おおむね順調には来ているかなと思っています。

ただ、一方でやっぱりいろいろミスがあったり、あるいは事件や事故もあつたりしました。その辺については、私たちが考えていかなければいけ

ないこと、あるいは取り組まなければいけないことが、まだ十分盛り込まれていないということであろうと思っていますので、そういったことなどについても来年は、今年余りにもそういったことが結構多くありましたので、その辺をしっかりと市民の皆さんから信頼される行政にしていきたいと思っております。

また、ちょうど来年はさいたま市が10周年を迎えるという大変記念すべき年でもありますので、私自身も1年半やってきたこれまでの反省を踏まえながら、新しい時代の扉をしっかりと開いていけるような、そんな年にしていきたいと思ひますし、その反省を、振り返りをきっちりやって来年に生かしていきたいなと思ひます。

○ 埼玉新聞 では、以上で質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

○ 進 行 どうもありがとうございました。以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

次回は、年明けの1月5日、水曜日の11時から予定しておりますので、よろしくお願ひします。きょうはどうもありがとうございました。

○ 市 長 どうもことし1年ありがとうございました。

午後2時07分閉会

この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣いなどを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後訂正された文言等については「会見後訂正」とし下線を付しています。